



取締役執行役員常務兼 CFO の柴田でございます。

本日はご多忙のところお集まりいただき、ありがとうございます。

2014 年 3 月期 第 3 四半期の決算概要についてご説明いたします。



本日の内容ですが、2014 年 3 月期第 3 四半期の決算概要および通期の業績予想についてとなっております。

エグゼクティブサマリ

I. 2014年3月期 第3四半期 決算概要

- 半導体売上高は、堅調な自動車や産業機器向けの出荷が季節性要因の減少をカバーし、前四半期並みの水準となった
- 営業損益は、構造改革による固定費削減効果に伴う利益増などにより前四半期比191億円増の300億円となり、4四半期連続で黒字を確保

II. 2014年3月期 通期業績予想

- 通期の半導体売上高は、前年度と比べて9%の増収だが、自動車向け半導体や中小型パネル向け表示ドライバICなどが牽引する一方、注力事業への集中による影響もあり、為替効果を除くと前年度比数%の減収を計画
- 売上計画にて通期の営業損益は、前年度比779億円増となる547億円の黒字を見込み、為替効果を除いても黒字を確保
- 通期の当期純損益は、早期退職優遇制度の実施や事業・生産構造改革関連など、748億円の特別損失を計上することにより、218億円の赤字を見込む

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 3 RENESAS

こちらが本日のご説明内容のサマリです。

1つ目が、第3四半期の決算概要です。

第3四半期の半導体売上高は、堅調な自動車や産業機器向けの出荷が季節性要因による減少をカバーし、例年出荷がピークとなる第2四半期並みの水準となりました。

営業損益は、構造改革による固定費削減効果に伴う利益増などにより、第2四半期と比べ、191億円増の300億円となりました。この結果、4四半期連続で黒字を確保いたしました。

2つ目が、通期の業績予想です。

通期の半導体売上高は、前年度と比べて9%の増収と見込んでいます。自動車向け半導体や中小型パネル向け表示ドライバICなどが牽引する一方、注力事業への集中による影響もあり、為替効果を除くと前年度比数%の減収を計画しております。

営業損益は、前年度と比べ、779億円増となる547億円の黒字を見込んでおります。また、営業損益は為替による増益効果を除いても黒字を確保する見通しです。

当期純損益は、早期退職優遇制度の実施や事業・生産構造改革関連など、748億円の特別損失を計上することにより、218億円の赤字を見込んでおります。



それでは、第 3 四半期の決算概要について詳しくご説明いたします。

2014年3月期 第3四半期 決算概要

- 営業損益は、構造改革による固定費削減効果に伴う利益増などにより 前四半期比191億円増の300億円となり、4四半期連続で黒字を確保
- 四半期純損益は、鶴岡工場の資産譲渡に係る減損など164億円の特別損失があったものの、LTEモデム事業譲渡など155億円の特別利益があり、230億円の黒字となった

(単位:億円)	2013年3月期		2014年3月期					
	第3四半期	前期 3Q累計	第2四半期	第3四半期	前年同期比	前四半期比	前期 3Q累計	3Q累計 前年同期比
売上高	1,930	6,024	2,178	2,156	+246 (+12.6%)	-22 (-1.0%)	6,325	+321 (+5.2%)
売上総利益(率)	947 (49.0%)	1,748 (29.1%)	779 (35.7%)	840 (39.0%)	+283 (36.2%)	+62 (7.3%)	2,345 (37.1%)	+558 (18.0%)
半導体売上高	1,772	5,507	2,077	2,076	+305 (+17.2%)	-1 (-0.0%)	6,050	+542 (+9.0%)
営業損益	△79	△392	109	300	+379	+191	507	+819
経常損益	△111	△355	54	293	+404	+240	432	+788
四半期純損益	△458	△1,617	△88	230	+586	+318	102	+1,719
(参考)特別損失	△328	△1,208	△112	△3	+320	+104	△257	+1,001
1株当たり	79円	80円	96円	99円	26円 円安	1円 円安	94円	18円 円安
1.3-1.0=	102円	102円	120円	134円	32円 円安	4円 円安	130円	28円 円安

※黒字に付いた数字は赤字を意味し、△が赤字(円)を意味する。

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 5 RENEAS

5 ページは、第3四半期の業績サマリです。

前述のとおり、営業損益は、構造改革による固定費削減効果に伴う利益増などにより 前四半期比 191 億円増の 300 億円となりました。この結果、4 四半期連続で黒字を確保いたしました。

四半期純損益は、鶴岡工場の資産譲渡に係る減損など 164 億円の特別損失があったものの、 LTE モデム事業譲渡などの 155 億円の特別利益があったことから 230 億円の黒字となりました。



6 ページは、四半期ごとの業績推移です。

第3四半期の半導体売上高は、前四半期比フラット、前年同期比では17.2%の増収となりました。

営業損益は、構造改革による固定費削減が寄与したことから、4四半期連続で黒字を確保いたしました。

2014年3月期 第3四半期 半導体売上高の事業別状況①

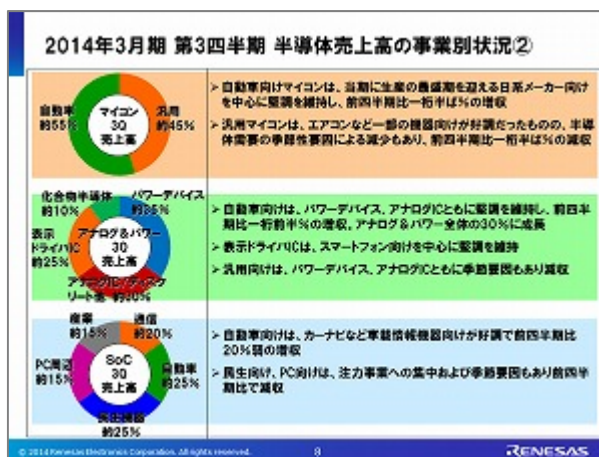
■ 堅調な自動車や産業機器向けの出荷が季節的要因の減少をカバーし、前四半期並みの半導体売上高を確保

単位:億円	2013年3月期		2014年3月期			
	第3四半期	前四半期	第2四半期	第3四半期	前年同期比	前四半期比
半導体売上高計	1,772	1,772	2,077	2,076	+305 (+17.2%)	△1 (±0%)
マイコン	712	712	889	899	+187 (+26.2%)	+10 (+1.1%)
アナログ&パワー 半導体(ASP)	578	578	723	724	+146 (+25.2%)	+1 (+0.1%)
SoC	451	451	453	438	△13 (-2.9%)	△15 (-3.3%)
その他半導体	31	31	12	16	△15 (-48.4%)	+3 (+9.4%)

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 7 RENESAS

7 ページは、第3四半期の事業別半導体売上高です。

第3四半期は、堅調な自動車や産業機器向けの出荷が季節的要因の減少をカバーし、半導体売上は、前四半期並みの売上を確保いたしました。

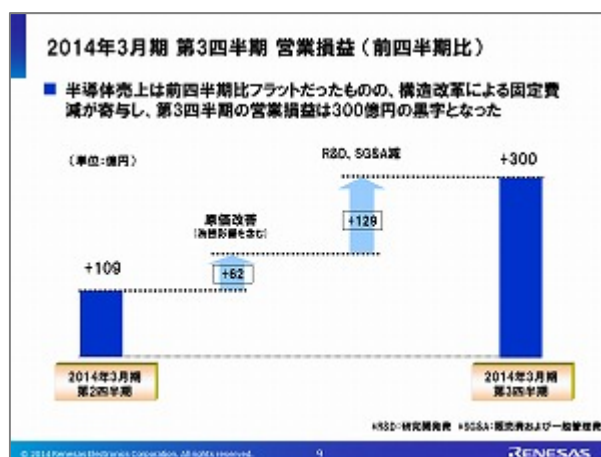


8 ページは、第 3 四半期の事業別半導体売上高について、さらに分野別で詳しく示したものです。

マイコンについては、自動車向けが、第 3 四半期に生産の最盛期を迎える日系メーカー向けを中心に堅調を維持し、前四半期比一桁半ば%の増収となりました。汎用向けは、エアコンなど一部の機器向けが好調でしたが、半導体需要の季節的要因による減少もあり、前四半期比一桁半ば%の減収となりました。

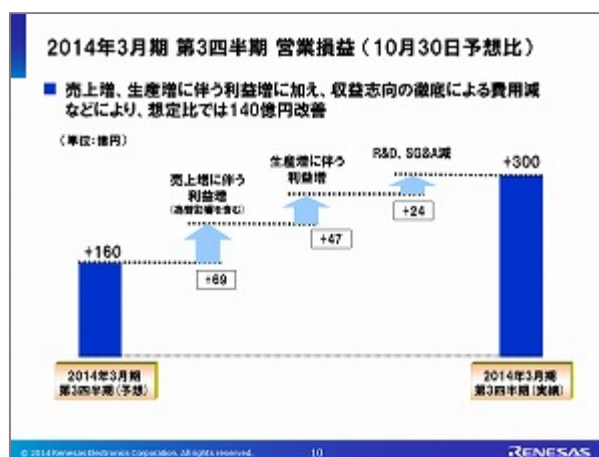
アナログ&パワー半導体については、自動車向けが、パワーデバイス、アナログ IC とともに堅調を維持し、前四半期比一桁前半%の増収となりました。この結果、自動車向けの売上がアナログ&パワー半導体売上全体の 30%まで成長しました。表示ドライバ IC は、スマートフォン向けを中心に引き続き堅調を維持しております。一方、汎用向けは、パワーデバイス、アナログ IC とともに例年 2Q から 3Q にかけて売上が減少する季節的要因の影響もあり減収となりました。

SoC については、自動車向けが、カーナビなど車載情報機器向けが好調で第 2 四半期と比べ、20%弱の増収となりました。また、民生向け、PC 向けは、注力事業への集中や、季節性による影響もあり第 2 四半期と比べ、減収となりました。



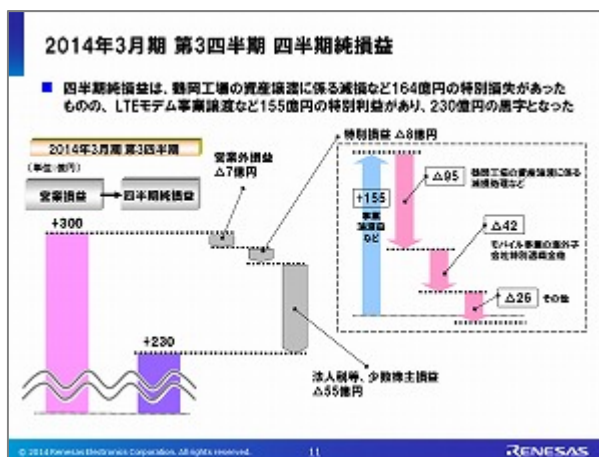
9 ページは、第3四半期の営業損益について、前四半期からの増減で示したものです。

第3四半期の半導体売上高は、第2四半期とほぼ同額だったものの、構造改革による固定費の削減が寄与し、第3四半期の営業損益は300億円の黒字となりました。



10 ページは、第3四半期の営業損益について、10月30日に公表した業績予想における営業損益からの増減で示したものです。

売上増や生産増に伴う利益増に加え、当社が取り組んでいる収益志向の徹底による費用の削減などにより、10月30日に公表した160億円の営業黒字に対して140億円改善いたしました。



11 ページは、第3四半期の四半期純損益の状況について、営業損益からの内訳を示したものです。

第3四半期の四半期純損益は、鶴岡工場の資産譲渡に係る減損など164億円の特別損失がございましたが、LTEモデム事業譲渡など155億円の特別利益があったことから、230億円の黒字となりました。

キャッシュ・フローの状況

■ 継続した営業利益の確保により、当四半期のフリー・キャッシュ・フローは305億円と3四半期連続で黒字を確保

(単位：億円)	2013年3月期			2014年3月期			
	第3四半期	9ヶ月累計 (4-12月)	前年同期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	9ヶ月累計 (4-12月)
営業活動による キャッシュ・フロー	△475	△610	△541	284	90	339	714
投資活動による キャッシュ・フロー	△61	△265	△452	△25	△65	△34	△124
フリー・ キャッシュ・フロー	△536	△875	△973	259	25	305	589

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 13 RENESAS

13 ページは、キャッシュ・フローの状況です。

継続した営業利益の確保により、当四半期のフリー・キャッシュ・フローは305億円と3四半期連続で黒字を確保いたしました。



次に、2014 年 3 月期通期の連結業績予想についてご説明いたします。

2014年3月期 第4四半期および通期連結業績予想

- 通期の半導体売上高は、前年度と比べて9%の増収だが、自動車向け半導体や中小型パネル向け表示ドライバICなどが牽引する一方、事業の集中による売上減もあり、増収効果を除くと前年度比数%の減収を計画
- 売上計画にて通期の営業損益は、前年度比779億円増となる547億円の黒字を見込み、増収効果を除いても黒字を確保
- 通期の当期純損益は、収益力の強化策として早期退職優遇制度の実施や事業・生産構造改革関連など、748億円の特別損失を計上することにより、218億円の赤字を見込む

(単位:億円)	2013年3月期		2014年3月期				
	第4四半期 (累計)	通期	第3四半期 (累計)	第4四半期 (累計)	前年同四半期	前四半期比	通期
売上高	1,854	7,258	2,158	1,900	+46	△256	8,225
半導体売上高	1,739	7,247	2,078	1,850	+111	△226	7,900
営業損益	80	△232	300	40	△40	△200	547
増替換益	87	△269	293	10	△77	△283	442
当期純損益	△59	△1,676	230	△320	△261	△550	△218
(※特別損失)	△101	△1,309	△8	△290	△189	△282	△497
1155=	89円	82円	99円	101円	129円増	29円増	99円
1156=	116円	106円	184円	138円	20円増	49円増	132円

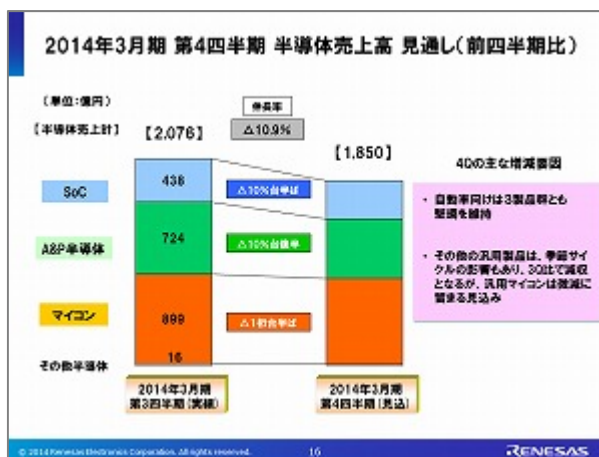
© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 15 RENESAS

15 ページは、第4四半期および通期の連結業績予想でございます。

通期の半導体売上高は、前年度と比べて9%の増収を見込んでおります。自動車向け半導体や中小型パネル向け表示ドライバICなどが牽引する一方、注力事業への集中による影響もあり、為替効果を除くと前年度比数%の減収を計画しております。

通期の営業損益は、前年度と比べ、779億円増となる547億円の黒字を見込んでおります。また、営業損益は為替による増収効果を除いても黒字を確保する見通しです。

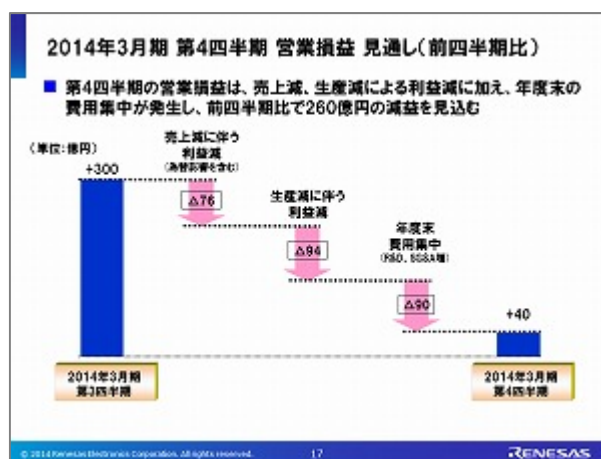
通期の当期純損益は、収益力の強化策として当社が取り組んでおります、早期退職優遇制度の実施や事業・生産構造改革関連など、748億円の特別損失を計上することにより、218億円の赤字を見込んでおります。



16 ページは、第4四半期の事業別の半導体売上見通しです。

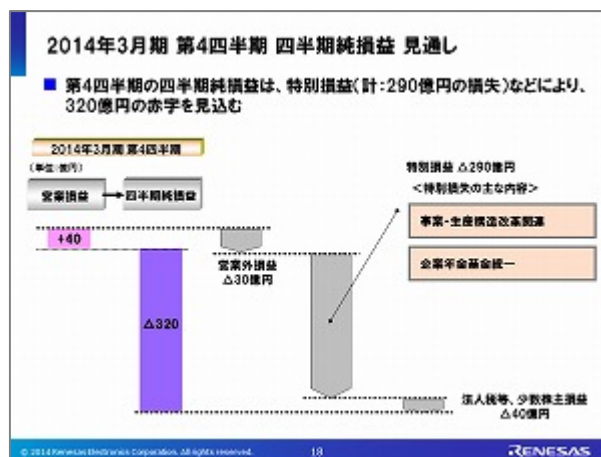
自動車は3製品群ともに堅調を維持するものと見込んでおります。

その他の汎用製品は、季節サイクルの影響もあり、第3四半期と比べ減収となりますが、汎用マイコンは微減に留まるものと見込んでおります。



17 ページは、第4四半期の営業損益について、第3四半期からの増減で示したものです。

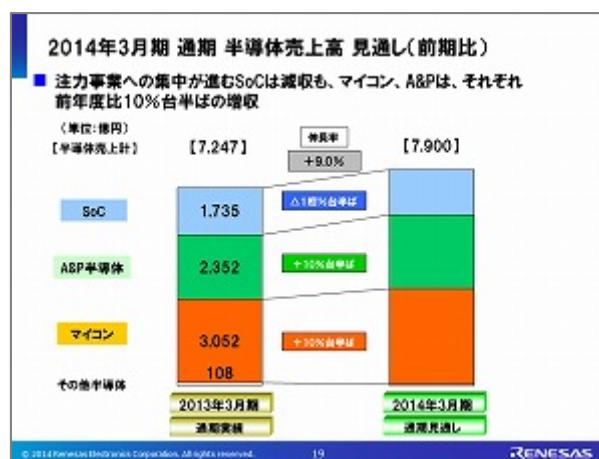
第4四半期の営業損益は、売上減、生産減による利益減に加え、年度末の費用集中が発生し、第3四半期と比べ、260億円の減益を見込んでおります。



18 ページは、第 4 四半期の四半期純損益の見通しについて、営業損益からの内訳を示したものです。

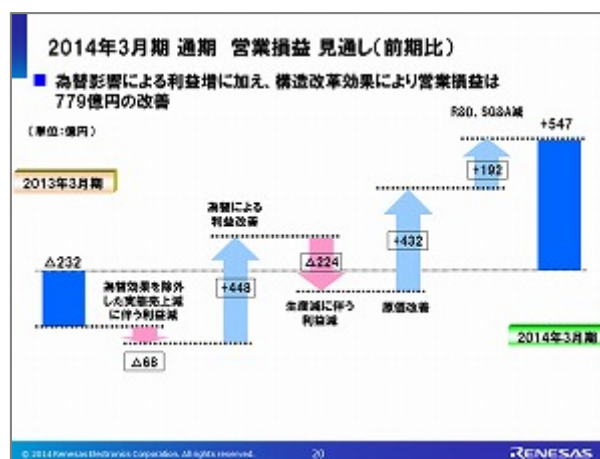
第 4 四半期の特別損益は、事業・生産構造改革関連や、企業年金基金の統一に伴う特別損失を計画するなど特別損益は 290 億円の損失を計画しております。

その結果、第 4 四半期の四半期純損益は 320 億円の赤字を見込んでおります。



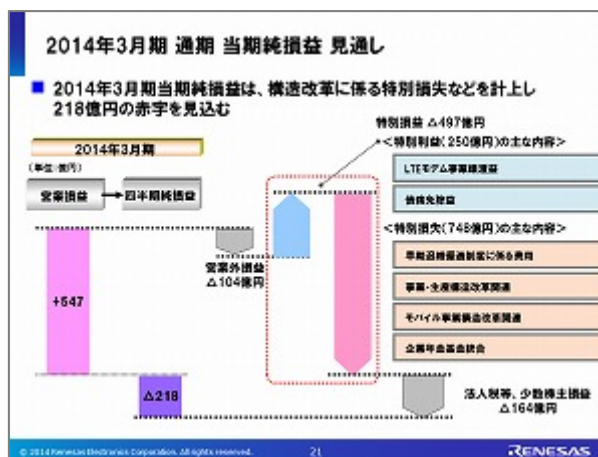
19 ページは、2014年3月期通期の事業別の半導体売上高見通しについて示したものです。

注力事業への集中が進む SoC は減収となりますが、マイコン、A&P は、それぞれ、前年度と比べ、10% 台半ばの増収を見込んでおります。



20 ページは、2014年3月期通期の営業損益見通しについて、前年度からの増減を示したものです。

通期の営業損益の見通しは、為替影響による利益の増加に加え、構造改革の効果による費用の減少により、営業損益は779億円の改善を見込んでおります。



21 ページは、2014年3月期通期の当期純損益見通しについて、営業損益からの内訳を示したものです。

通期の当期純損益の見通しは、早期退職優遇制度や事業・生産構造改革に係る特別損失を計上することなどにより、218 億円の赤字を見込んでおります。

まとめ

- 第3四半期の業績は、自動車や産業機器向け半導体が堅調で、前四半期並みの半導体売上高となったことに加え、構造改革による固定費削減効果に伴う利益増などにより4四半期連続で黒字を確保
- 通期の半導体売上高は、前年度比9%の成長だが、成長事業での売上増の一方、事業の集中による売上減により、実態は前年度比数%の減収を計画
- 営業損益は、構造改革効果に加え、円高の是正効果により、改善傾向にあるが、安定して営業利益を上げるべく、期末費用集中の平準化や戦略事業への集中投資と回収などの課題に取り組む
- 事業ポートフォリオの変革を図る中で、売上増に依存せず、安定した利益を生み出せるよう構造改革を推進

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved. 22 RENESAS

最後に、22 ページは、ご説明した内容のまとめとなっております。

2014年3月期第3四半期の業績は、自動車や産業機器向け半導体が堅調で、前四半期並みの半導体売上高を確保いたしました。加えて、事業・生産構造改革による固定費削減効果に伴う利益増などにより、4四半期連続で黒字を確保しております。

2014年3月期通期の半導体売上高は、前年度比9%の成長を見込んでおります。成長事業での売上増の一方で、事業の集中による売上の減少により、実態は前年度比数%の減収を計画しております。

通期の営業損益は、構造改革による費用削減効果に加え、円高の是正効果により、改善の傾向ではありますが、安定して営業利益を上げるべく、期末費用集中の平準化や戦略事業への集中投資と回収などの課題に取り組んでまいります。

当社は、事業ポートフォリオの変革を図る中で、売上の増加に依存せず、安定した利益を生み出せるよう構造改革を今後も推進してまいります。

【将来予測に関する注意】

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、見積及び実績見直しは、使用点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、適切なリスクの管理がなされております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見直し等とは大きく異なる結果となるおそれがあることをご留意ください。実際の業績等に関する追加的な重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、中国、アジア、欧州等の経済環境、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスグループの競合、サービスに対する需要の増減や競争環境による価格下落圧力、(3)新しい競争に参入された影響においてルネサス エレクトロニクスグループが引当額を調整に要せられる期間、サービスを維持し続けることができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がある点です。これらは別に掲げる要因があります。また、経済環境の悪化、世界の金融市場の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当該の見直しと異なる結果となる可能性もありません。

RENESAS

ルネサス エレクトロニクス株式会社
© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014 年 3 月期 第 3 四半期の決算概要のご説明は以上でございます。